

# #1 津波警報等の視覚による伝達のあり方検討会

国際信号旗U旗による、津波災害危険情報の伝達

— 説明次第 —

- 1 U旗採用の経緯
- 2 実際の運営概要
- 3 取組の周知・広報



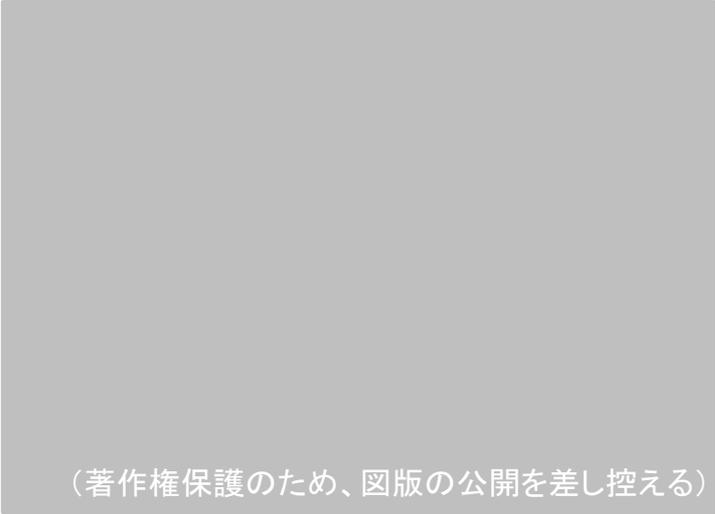
## 1-1 U旗採用の経緯 —スマトラ沖地震津波災害 2004 12.26 —



(著作権保護のため、図版の公開を差し控える)



(著作権保護のため、図版の公開を差し控える)



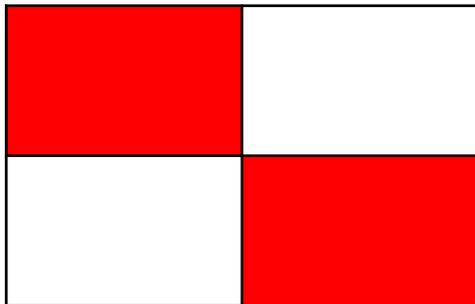
(著作権保護のため、図版の公開を差し控える)

※ 下田LSCは、2004のスマトラ沖地震による津波発生を受けて対策委員会を設置し、下田市と下田LSCが協力して津波災害を知らせる旗(赤白旗・U旗)を決定

※ 下田LSC : 下田Life Saving Club(下田ライフセービングクラブ)

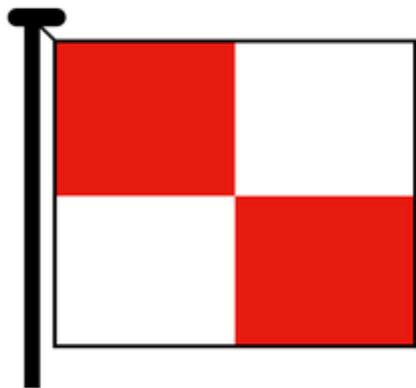
## 1-2 U旗採用の経緯 —U旗の運用上の特性—

U旗



- 1 危険回避(ただちに海からあがれ)の意味を持つ信号旗であり、海外では一般的に使用されている。
- 2 外国人の多いビーチにおいては有効であることから、今後増加する外国人海水浴客対応においては有効
- 3 日本では海から上がれを意味する旗は、数種類採用されており、統一されていない。このため、採用は少数。(気象庁のアンケート 2012.4 では2件)
- 4 日本ライフセービング協会では(国際信号旗の使用)を推奨 (→補足資料)

## 津波旗

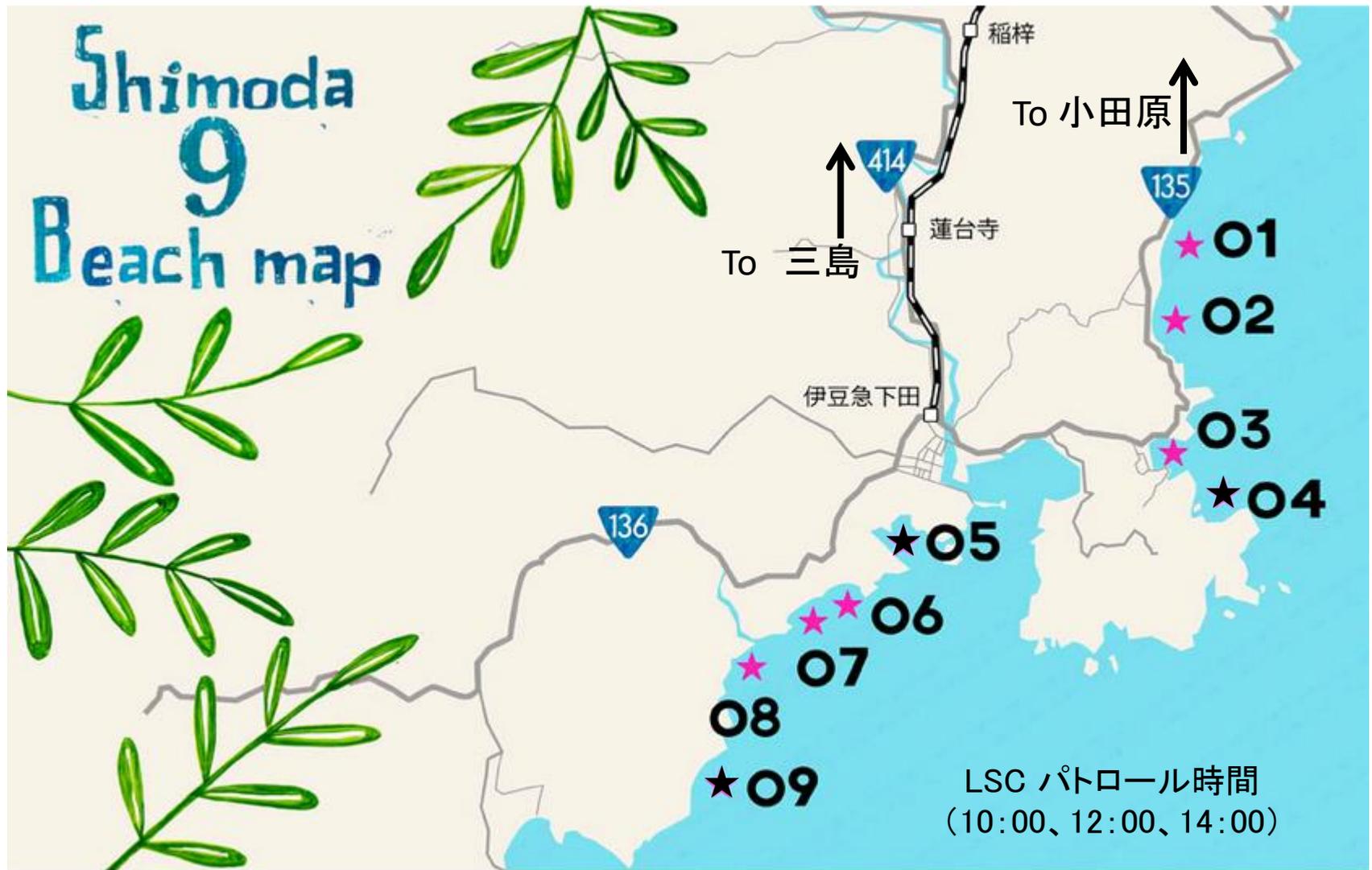


国際信号旗のU旗

- 海浜利用者への津波伝達手段として津波旗が利用されることがあります。水辺からの避難誘導旗は2008年にISO20712-2によって規定され、国際規格の安全色の赤を用いている。
- 日本ライフセービング協会が加盟する国際団体、国際ライフセービング連盟(ILS)もこの規定を推奨している。
- 国際信号旗のU旗は水辺の避難誘導に使われている。津波誘導時の旗として、外国人にも理解されやすく、光の角度によっても影響されづらい中性的な色は避けた避難誘導旗の周知を、日本ライフセービング協会は推進していきます。

日本ライフセービング協会(JLA)公式HP「津波が来たらどうする？」より引用  
<https://jla-lifesaving.or.jp/watersafety/tsunami/>

## 2-1 実際の運営 — 下田市 9ビーチ —



01 白浜中央ビーチ 02 白浜大浜ビーチ 03 外浦ビーチ 04 九十浜ビーチ 05 鍋田浜ビーチ  
06 多々戸浜ビーチ 07 入田浜ビーチ 08 吉佐美大浜ビーチ 09 田牛ビーチ

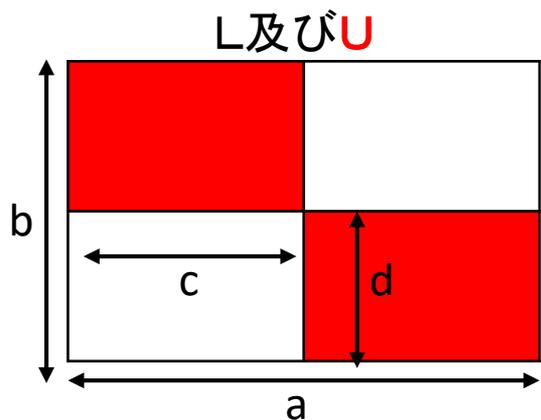
凡例： 下田LSC管理ビーチ 地元管理ビーチ

## 2-2 実際の運営 — U旗のサイズ(国際信号旗) 国際規格 —

### ○ 昭和8年通信省令第51号 国際信号旗の寸法に関する件

国際信号旗の寸法に関する件 左の通り定める。

政府間海事協議機関の採択せる国際信号書掲載の国際信号旗は左の寸法のもの何れかを使用すべし。



U: Uniform(ユニフォーム)  
貴船の進路に危険あり

サイズ	Cm			
	a	b	c	d
大	244.0	198.0	122.0	99.0
中	168.0	137.0	84.0	68.5
小	91.0	76.0	45.5	38.0

ビーチ(掲示用)

ビーチ(人員用)

## 2-3 実際の運営 — U旗の使用要領及び掲出条件 —



- 避難の呼びかけ  
下田市では、ライフセーバーが海域海岸利用者に向けて**放送を流し**ながら、パトロールタワーより**国際信号旗「U旗」を大きく振り**、避難の呼びかけを行う。
  
- 旗を掲出する条件
  - 1 大きな揺れを感じた時
  - 2 地震情報で**震度4以上**
  - 3 **津波警報**が出された時
  - 4 **津波注意報**が出された時
  - ※ 5 **警戒宣言**(東海地震予知情報)の発令

※ 2006. 8時点での下田LSCでのU旗使用規程。本年度以降は東海地震予知情報を**南海トラフ臨時情報**に置き換えて運用されていくものと考えられる。

2005 7.2 静岡新聞

# 津波だ！避難だ！ 「赤と白」で急報

下田市は今季から、海水旗」を使用することを決め、浴室やサーファーに津波の危険を視覚で知らせるため、赤と白の市松模様に似た国際信号旗で、「危険に

向かっている（危険が迫っている）」の意味を持つ「U

海水浴客らを対象にした津波の連絡はサイレンや同

「津波の危険を知らせる旗に」と、下田市などが提唱する「U旗」＝同市役所



## 国際信号旗、下田市が採用

訓練  
海岸  
海沿

報無線が主流だが、視覚に訴える手段はほとんどなかった。市は「地震発生や津波警報発令時にU旗を掲揚したり、大きく振ったりして危険を伝えたい」としている。

市夏期海岸対策協議会の一員で、U旗を提案したNPO法人下田ライフセービングクラブの江田邦明理事長によると、オーストラリアでは全土で、サメの出没を知らせる「シャークアラーム」として同旗を使用しているという。

江田さんは「津波も、サメも、一斉避難を指示する点は同じ。首都圏の来訪者が多い下田で旗の認知度を高め、全国に広めたい。スマートの津波被害の印象が強いところ」対策を急ぐべき」と話し、全国組織の日本ライフセービング協会などにも協力を呼び掛ける考えだ。



## 3-2 取組の周知・広報 — ビーチ広報 —

## ○ 立札設置



## ○ WiFi接続画面による広報(準備中)



無料WiFiに接続すると、必ず案内がでるようになっています。